

2022-1 路面標示

令和4年(2022年)第1回

登録標識・路面標示基幹技能者講習(路面標示)

修了試験問題

修了試験実施日：2022年7月15日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切り鞆の中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受験番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から30分が経過するまで及び試験終了10分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑦ 質問がある場合は静かに挙手をし、係員の指示に従ってください。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約1週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和4年9月1日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

問 1

主任技術者に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設業の許可を受けた者が建設工事を施工する場合は、主任技術者を配置しなければならない。
- ② 登録基幹技能者は、主任技術者の要件のひとつとして認められている。
- ③ 主任技術者は、工事現場における工事の技術上の管理をつかさどる者である。
- ④ 建設業者が4000万円以上の下請をさせる場合は、主任技術者を配置しなければならない。

問 2

「経営事項審査」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設業者は公共工事の入札に当たり、建設業法に定める経営事項審査を受けておかなければならない。
- ② 経営事項審査は「経営規模」「経営状況」「技術力等」が総合的に評価され、数値化されている。
- ③ 登録基幹技能者のメリットとして、「経営事項審査での加点」「総合評価落札方式の入札において加点」等がある。
- ④ 登録基幹技能者は、審査項目「Z1：技術職員数」において加点評価(5点)の対象になっている。

問 3

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 他職種との折衝、調整を行い、工事の円滑化を図るとともに、部下の指導、教育を計画的に行うこと。
- ② 安全管理に係る基本的な知識を有し、作業手順書の作成、KY 活動(危険予知活動)、新規入場時の受入れ教育、作業改善等の一連の安全管理活動等を行うこと。
- ③ 品質管理に係る基本的な知識を有し、工事工程表に基づき工程の進捗管理を行うこと。
- ④ 物事の重要度、緊急度は自身が判断せず、上司に報告の上、指示に従って行動すること。

問 4

登録基幹技能者による OJT に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① OJT は、上司の仕事そのものであるとの認識のもとに行う。
- ② OJT は、部下の能力レベルに合わせた指導育成の目標を立てる。
- ③ OJT は、その実施により業績低下が生じるのはやむを得ないとされる。
- ④ OJT は、組織外の実態、考え方などに触れて視野を拡大する機会を提供する。

問 5

建設工事の下請契約書について見積条件の提示等(建設業法第 20 条、第 20 条の 2)に関する次の記述のうち、違反とならない行為はどれか

- ① 元請負人が不明確な工事内容の提示により、下請負人に見積りを行わせた場合。
- ② 元請負人が不明確な見積期間を設定し、下請負人に見積りをさせた場合。
- ③ 元請負人が下請負人から工事内容等の見積条件に関する質問を受けた際、元請負人が未回答あるいは曖昧な回答をした場合。
- ④ 元請負人が予定価格 700 万円の下請契約を締結する際、見積期間を 10 日として下請負人に見積りを行わせた場合。

問 6

労働安全衛生法第 30 条(特定元方事業者等の講ずべき措置)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 週 2～3 回程度作業場所を巡視すること。
- ② 安全衛生協議会又は災害防止協議会の設置及び運営を行うこと。
- ③ 元請業者と下請業者又は下請業者間の連絡及び調整を行うこと。
- ④ 元請業者が下請業者の作業員に対し安全衛生教育を行うこと。

問 7

道路法及び道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路管理者は、道路を常時良好な状態に保つように維持し、修繕し、もって一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならない。
- ② 道路管理者は、道路の構造を保全し、又は交通の安全と円滑を図るため、必要な場所に道路標識又は区画線を設けなければならない。
- ③ 道路標識及び横断歩道は、道路附属物として定められている。
- ④ 都道府県道又は市町村道に設ける道路標識の寸法は、標識令の定めるところを参酌して、当該地方公共団体が条例で定める。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路法が定める高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道は、全て道路交通法上の「道路」である。
- ② 私道は道路交通法上の「道路」にならない。
- ③ 道路における騒音、振動などを防止することは、道路交通法の目的の一つである。
- ④ 道路交通法による交通規制は都道府県公安委員会が行う。

問 9

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 昭和 44 年、路面電車の減少に伴って「電停」標示板が撤去されたため、「主要地点(114 の 2-A・B)」標識が新設された。
- ② 昭和 46 年に「車両通行区分」や「専用通行帯」など 13 様式が追加された。
- ③ 平成 7 年、「交差道路標識」が制定され、「国道番号(118-B)」は淡い赤色、「都道府県道番号(118 の 2-B)」は淡い青色となった。
- ④ 平成 26 年の標識令改正では、案内標識の表記は日本語と英語によって行われるものであることが明記された。

問 10

標識令に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 16 年の道路交通法の改正では、高速道路での二輪車二人乗りが可能になったため、これを規制する「大型自動二輪車及び普通自動二輪車二人乗り通行禁止(310 の 2)」標識が制定された。
- ② 平成 18 年の改正では、自動車の区分として新たに中型自動車加わったが、特定中型貨物自動車は補助標識「車両の種類(503)」では「普通車」に分類されることになった。
- ③ 平成 27 年には、案内標識の矢印に白色以外の色を使用することが可能になった。
- ④ 令和 2 年、道路法の改正により特定車両の停留施設が道路附属物として設置できることになり、「許可車両専用(325 の 5-A・B・C)」等の標識が追加された。

問 11

「道路の移動等円滑化整備ガイドライン」に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 歩道の有効幅員は 2m 以上確保することとし、横断勾配は 1%以下と規定している。
- ② 高齢者や身体障害者にとって安心・安全に移動できる明るさとして、水平面照度は 5 ルクス程度と規定されている。
- ③ 路面電車停留場の乗降場の有効幅員は、両側を使用するものは 2m 以上、片側のみの使用については 1.5m 以上確保することを規定している。
- ④ 立体横断施設に設けられる通路、傾斜路、階段等には手すりを設けることを規定し、その寸法等を例示している。

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

問 12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 工程と原価の関係は、施工速度を上げれば上げるほど原価は安くなる。
- ② 原価と品質の関係は、品質を良くすると原価は高くなるが、品質を下げる
と原価は低くなる。
- ③ 品質と工程の関係は、品質を良くすると一般的に時間がかかり施工速度は遅くなるが、施工速度をムリに上げようとする
と品質は一般的に低下する。
- ④ 施工管理は、請負契約を確実に履行するための手段で、最初に施工計画を立案して、品質、原価、工程、安全、環境保全等の各施工計画を作成する。

問 13

周辺地域の環境保全対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 地域住民への説明会は、工事着手前に地区自治会等を通じて行い、工事の目的、内容、環境保全対策等について説明し、地域住民との合意を図る。
- ② 資材等の運搬時の工事用車両による交通障害及び沿道対策については、工事開始後に対策を講じる。
- ③ 工事の作業時間は影響の少ない時間帯とし、夜間、早朝の作業を避けるなど作業工程の設定を行う。
- ④ 建設工事の騒音・振動対策として、低騒音・低振動の工法及び機械をできるだけ採用する。

問 14

作業計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工要領書は、原則として工種ごとに作成し、施工方法はできるだけ部分詳細図、図表等を主体とし、わかりやすいように記載する。
- ② 施工要領書は、経済性と品質の維持向上に重点を置き、現場環境、設備内容、工程等の様々な条件を考慮し、適切な施工方法を選定する。
- ③ 作業手順書は、誰がやっても基準どおりに同じ結果が得られるように作成する。
- ④ 作業手順書の作成上の留意点は、設計図面、特記仕様書を優先し、できるだけ文字を短くまとめ、具体的で、簡潔に表現する。

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 作業可能日数は、休日、天候その他に基づく作業不能日数を差し引いて算定する。
- ② 斜線式工程表は、トンネルや舗装工事のように工事区間が線状に長く一定方向に進捗し、比較的工種が少ない工事に用いる。
- ③ バーチャート工程表は、各作業の所要日数と工種間の関係が把握できるため複雑な工事に活用できる。
- ④ ネットワーク式工程表は、作業手順、作業の相互関係がわかり、工期に影響を与える作業を重点的に管理することができる。

【原価管理】

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原価要素は、建設工事では、材料費、労務費、経費の 3 原価要素に分類する。
- ② 元請負人及び下請負人は、見積時から法定福利費を必要経費として適正に確保することが必要である。
- ③ 実行予算は、利益確保のため、下請負業者への発注金額を圧縮し、下請負業者の技能労働者を不当な低賃金に追い込んではいない。
- ④ 予算実績管理は、実行予算と実績を比較しながら差異を把握し、目標利益を達成することが困難な場合は直ちに原価低減の活動を実行する。

【品質管理】

問 17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工品質を確保し向上させるためには、可能な範囲で作業の標準化を図ることが必要である。
- ② 品質には設計段階で定める設計品質(ねらいの品質)と施工段階で実現する施工品質(出来ばえの品質)がある、
- ③ 品質を構成する特性を品質特性という。品質特性は具体的な数値で表示されることが望ましく、それを品質特性値という。
- ④ 建設物は、多くの専門工事業者が分担して施工するものであり、品質は工程ではなく、検査でつくり込むものである。

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 品質管理とは、「買い手の要求に合った品質の物又はサービスを経済的につくり出す」とことと定義されている。
- ② QC7つ道具とは、チェックシート、層別、パレート図、管理図、ヒストグラム、安全データシート、散布図である。
- ③ ヒストグラムとは、チェックシート等で得られた要因の発生状況を棒グラフにしたものである。
- ④ 令和2年4月1日以降、民法の「瑕疵担保責任」は、「契約不適合責任」に文言が改められ、履行の追完(補修等実施請求)と代金減額請求等が規定された。

問 19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 30 年の土木工事における死亡災害種別は、墜落、建設機械等、自動車等、飛来落下の順に多く、これら 4 つで全体の 72.9%を占める。
- ② KY 活動(危険予知活動)とは、作業前に、作業グループごとに、その日の作業の危険のポイントを洗い出し、適切な対策を立てる活動である。
- ③ ハインリッヒの法則では、1 件の重大災害が発生する背景には、19 件の軽傷事故と 200 件のヒヤリ・ハットがあるとされる。
- ④ 脚立の正しい使い方は、①天板に乗らない②身を乗り出して作業しない③脚立を背にして降りない④昇降時に手を空けておくなどがある。

問 20

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設業における労働災害は、各種災害防止対策を講じたため他産業に比べ低い割合となっている。
- ② 労働災害を発生させた場合は、刑事責任の業務上過失致死傷罪と労働安全衛生法違反が問われ、民事損害賠償責任や行政責任を負うこともある。
- ③ 労働安全衛生法が定める作業員が守るべき義務としては、安全状態の保持、無資格就労の禁止、保護具の着用、危険行動の禁止などがある。
- ④ 登録基幹技能者は、特定技能外国人労働者の安全の確保についてもリーダーシップを発揮しなければならない。

問 21

路面標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 標識令に規定されている区画線と道路標示のほか、交通の安全と円滑の確保のために用いられている法定外の路面上の表示があり、これらを総称して路面標示という。
- ② 法令に定められていない法定外表示は、交通事故防止上有効であるなどの理由で設置される表示で、代表的なものとしては「止まれ」「自転車シンボルマーク」などがある。
- ③ 路面標示は大別して区画線と道路標示からなり、区画線は主として道路管理者が、道路標示は都道府県公安委員会がそれぞれ設置する。
- ④ 路面標示の様式、設置者の区分、設置場所、その他必要な事項は、標識令に規定されている。

問 22

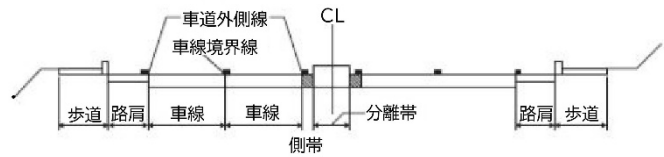
路面標示の種類に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車道幅員の変更(105)」は規制標示である。
- ② 「立入り禁止部分(106)」は規制標示である。
- ③ 「停止禁止部分(107)」は規制標示である。
- ④ 「車両通行区分(109の3)」は規制標示である。

問 23

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 幅員構成を定める路面標示「車線境界線(102)」、「車線外側線(103)」の設置位置は右図のとおりである。



- ② 「横断歩道(201)」を設置する場合の原則としては、曲線部又は縦断勾配等の変化で見通しが悪い場所には設置しないことが望ましい。
- ③ 「車道中央線(101)」(実線 2 本)の実線間隔は 0.10m~0.15m である。
- ④ 中央帯における側帯幅員は、高速自動車国道及び自動車専用道路以外では、0.50m である。

問 24

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「進行方向別通行区分(110)」(矢印)は 30m の実線内に 2 個矢印を設置し、その手前に必要があれば破線の予告矢印を 15m~30m 間隔で設置する。
- ② 「車線境界線(102)」を設置する場合の幅員は、最小 2.75m、最大(緩速車線相当分を含め)4.0m とする。
- ③ 「横断歩道(201)」は、原則として道路に直角に設置する。
- ④ 「車道中央線(101)」を設置する場合の原則は、車線が 3 車線以上の道路、横断歩道の手前 30m 及び追越し禁止が望ましい場所には実線で表示する。

問 25

区画線に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登坂車線とは、上り勾配の道路において速度の著しく低下する車両を他の車両から分離して通行させることを目的としている車線をいう。
- ② 「車道外側線(103)」は、原則として全ての道路に設置するが、この場合の最小車線幅員(一方通行の場合)は 3.0m とする。
- ③ 「車道中央線(101)」は、車道の幅員が 5.0m 以上の車道の中央に設置する。
- ④ 「車道外側線(103)」の幅は 0.15m~0.20m の白色の実線で用いる。

問 26

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「歩行者用路側帯(108の3)」は、白色の実線と破線で設置する。
- ② 「右左折の方法(111)」の規制については、道路標識の定めがないため、事実上道路標示のみを設置して行われる。
- ③ 「普通自転車の交差点進入禁止(114の4)」を設置する場合は、道路標識の定めがないため、道路標示のみを設置する。
- ④ 「車両通行区分(109の3)」の表示方法は、車両の種類 of 略称を用い、表示を簡潔にするため、原則として「○○(○○を除く)」方式をとる。

問 27

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「横断歩道又は自転車横断帯あり(210)」の道路標示は、立菱形記号で線の幅は0.20m～0.30mで表示する。
- ② 一度に渡りきるべき横断歩道の長さは、最大で15m程度とすることが望ましく、15mを超える場合は、横断歩道の中間に安全地帯を設けることが望ましい。
- ③ 「二段停止線(203の2)」は、白色の実線及び文字により表示する。
- ④ 法令上の要件として道路標識及び道路標示の双方の設置が必要と定められているのは、「横断歩道(201)」(信号機未設置)、「自転車横断帯(201の3)」(信号機未設置)、「停止線(203)」である。

【道路標示の材料・施工】

問 28

路面標示塗料に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 常温式塗料は、交通量の少ない道路の車道中央線、車道外側線及び垂直面(縁石等)などに適する。
- ② 加熱式塗料は、高速道路の車道中央線、車線境界線及び車道外側線及び積雪寒冷地に適する。
- ③ 熔融式塗料は、車両による摩耗の多い停止線、曲線部及び交差点、摩耗の多い横断歩道などに適する。
- ④ 熔融式塗料は、石だたみ、レンガ舗装、仮舗装、オーバーレイが予定されている路面などに適する。

問 29

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種 A(常温)塗料は、水を主な主成分とするビヒクルを用い、塗料中にガラスビーズを含まず常温で施工する液体塗料である。
- ② 1種 A(常温)塗料の低温安定性試験は、 -5°C の条件で塗膜が変質しないかを判定する基準となる。
- ③ 1種 A(常温)塗料の黄色塗料は、クロムが塗膜中に含まれているかを測定する試験が規定されている。
- ④ 1種 B(常温)塗料の黄色塗料の拡散反射率は 80%以上に規定されている。

問 30

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 2種 B(加熱)塗料は、塗料中に水が含有されるため 0°C 以下の低温において凍結する場合がある。
- ② 2種 A(加熱)塗料の耐水性試験は、塗膜の水分によるふくれ、割れ、剥がれ、しわ、色の変化などに対する試験である。
- ③ 2種 A(加熱)塗料では、一般的には密度が大きいと施工距離が短くなり、密度が小さいと施工距離が長くなる。
- ④ 2種 A(加熱)塗料の粘度(KU 値)は、塗料の粘性度を示すもので、主として作業性に関係する。

問 31

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)塗料で塗料中にガラスビーズを混入しないものは、視認性を長期間保持することは困難であるため、日本産業規格(JIS)では規格外としている。
- ② 3種(熔融)塗料の圧縮強さ試験は、車輪通過による路面標示の耐破壊力、耐久性及び脆性に対する試験である。
- ③ 3種(熔融)塗料の黄色度は、黄色塗料の熔融加熱時における変色度合いを判定する基準になる。
- ④ 3種(熔融)塗料の密度は、副次的要素で塗膜の性能への影響はほとんどない。

問 32

路面標示用ガラスビーズ(JIS R3301:2014)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 光がある物質から他の物質へ通り抜ける時に光の進行方向が変化し屈折する度合いを拡散反射率と呼び、再帰反射効果に影響を与える。
- ② JIS規格ガラスビーズの屈折率は1.5で、より屈折率の高い屈折率1.9以上のガラスビーズを高屈折率ガラスビーズという。
- ③ 再帰反射はガラスビーズが透明で球形状の時に得られる特性であるため、だ円、鋭角、不透明、異物、粒子間の融着などの欠点を持つものの混入率は、個数で20%以下とする。
- ④ ガラスビーズに使用されているソーダ石灰ガラスの比重は2.4～2.6である。

問 33

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① エアレススプレーは、塗料自体に高圧力を加えて圧送し、小口径のノズル孔より高圧噴射しパターンの拡がりを形成する。
- ② 常温・加熱式工法では一般にプライマーは塗布しない。
- ③ エアレススプレーは噴霧機構造上から塗料中の溶剤を多くする必要があり、エアスプレーよりも薄い塗膜となる欠点がある。
- ④ 水系型路面標示工法は、VOC(揮発性有機化合物)を大幅に削減し環境負荷を低減できるが、低温時の施工、降雨時等天候の制約が避けられない。

問 34

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 溶融式工法では、道路に塗装した後約 10 分以内に交通開放できる速乾性を要求される。
- ② 溶融式工法では、冷却固化が早すぎると収縮歪みが発生し、散布ガラスビーズの固着が悪くなる。
- ③ 溶融式工法でのプライマーの塗布量は、多すぎても不足しても接着力を弱める。
- ④ 排水性舗装の空隙確保のために、溶融式工法では噴射式・フローコーター式が用いられている。

問 35

路面標示の点検・塗り替えに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 規制標示及び指示標示は、交通規制を実施する場合の具体的な意思を表示する手段であるため、常に良好な視認性を保つことは、不可欠の条件である。
- ② 路面標示の点検項目として、剥離、汚れなどによる滑り止め効果の低下などがある。
- ③ 全国の道路総延長は膨大な量となっており、路面標示の点検には多大な費用と時間を要する。
- ④ 積雪地域で融雪後毎年塗り直しが必要となる道路では、特に経済性を考慮して工法を選択しなければならない。

問 36

路面標示の塗り替え基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 剥離率の測定は、摩耗、剥離、劣化等による塗膜の欠損部分の割合を、全体画像から測定する。
- ② 溶融型の路面標示は、通常 1.5mm から 1.7mm の厚さで施工しており、舗装路面が露出している場合は、路面の不陸(凹凸)を考慮しても 1mm 前後は摩耗していることになる。
- ③ 色差の測定は、道路標示白色見本との色差 ΔE を測定する。
- ④ 白の標示では、夜間の視認性に必要な反射輝度は $100\text{mcd}/\text{m}^2 \cdot \text{lx}$ を超える平均値が必要とされている。

問 37

路面標示の耐久性に関する全標協調査のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 密粒舗装と排水性舗装の摩耗度の変化は、排水性舗装の方が遅い傾向にある。
- ② 耐久性調査を実施する際の調査箇所は、道路交通センサスの交通量が公表されているので、当該センサス対象路線から抽出することが望ましい。
- ③ 交通量による摩耗度の変化は、時間の経過と交通量に比例して摩耗が進んでいく傾向にある。
- ④ 調査項目としては、交通量による摩耗度の違い、舗装種別による違い、大型車混入率による違い、気象条件や積雪による影響などがある。

問 38

路面標示の消去及び標示調査に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示の消去は、作業時の騒音、振動、粉塵の発生などの問題もあるので、路面の状況、道路環境、工費等を考慮して工法を選択する。
- ② 燃焼法はバーナーによる燃焼方式であり、一般に路面を痛めるため適さないが、作業効率は最も良い。
- ③ 従来路面標示の塗り替え調査では、調査員の主観に左右されることが多く、調査結果のばらつきが指摘されている。
- ④ 路面標示の調査技術は、撮影や解析技術等の進歩により様々な手法が開発され、作業員が安全で効率的に、かつ定量的に調査が行える技術開発が始まっている。

【法定外表示の設置等】

問 39

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 法定外表示等とは、標識令や関係法令で定められたもの以外の路面表示やカラー舗装、看板類で、交通の安全と円滑を図るために設置するものをいう。
- ② 法定外表示等の設置及び管理に当たっては、各都道府県警察と道路管理者とで設置内容や設置主体等を含めて調整を図ることとなっている。
- ③ 新たな法定外表示を考案、設置する場合には、一見してその意味が理解できるものであり、かつ、標識令等に基づく道路標識等の様式と類似の形態(図柄等)とする。
- ④ [ハンプ路面表示] は、車両進行方向のハンプすりつけ部に配置することとし、一方通行の道路においては、中央付近に設置する。

問 40

法定外表示等の設置に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「標準仕様を定める法定外表示の仕様」については、道路状況、地域特性等に応じこれらと異なるものも認められている。
- ② [「進路変更禁止」の注意喚起表示] は、進路変更禁止の規制区間の手前の車両通行帯境界線のペイント等がない部分に設置し、色は白色とする。
- ③ [減速を促す路面表示] は、減速を要する区間及びその手前に設置し、色は白色とする。
- ④ 「統一を図る法定外表示」には、[「止まれ」文字表示] や [「進行方向別通行区分」の予告表示] 等がある。

受講番号

氏名

【基幹技能者一般知識】

1	2	3	4
4	4	4	3

【建設業法・安衛法】

5	6
4	1

【道路法・道路交通法】

7	8
3	2

_____/8

【標識令改正】

9	10	11
3	2	2

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

12	13	14	15
1	2	4	3

_____/7

【原価管理】

16
1

【品質管理】

17	18
4	2

【安全管理】

19	20
3	1

_____/5

共通 合計
_____/20

【路面標示の設置】

21	22	23	24	25	26	27
2	1	4	2	3	1	4

_____/7

【道路標示の材料・施工】

28	29	30	31	32	33	34
4	4	1	3	1	3	1

_____/7

【路面標示の維持管理・塗り替え基準】

35	36	37	38
2	3	1	2

【法定外表示の設置等】

39	40
3	2

_____/6

専門 合計
_____/20

_____総合計_____/40